

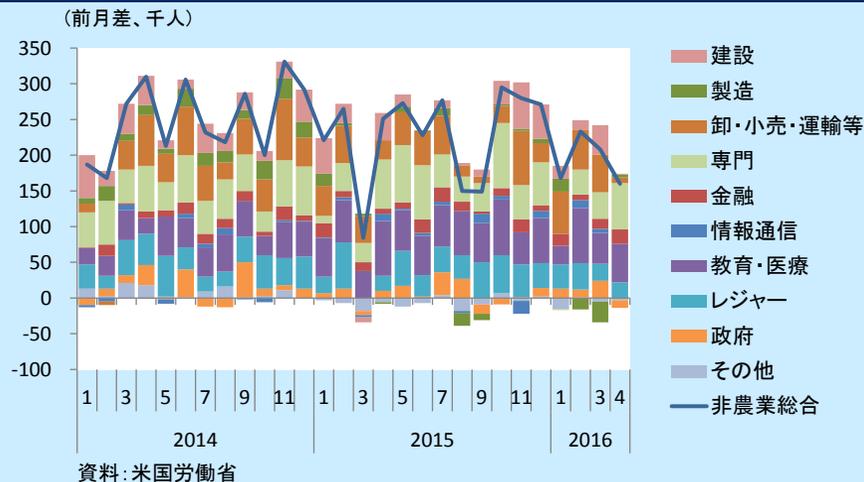
# 米国：雇用統計（2016年4月）

## 一雇用者数の増加ペースはやや減速一

# MRI Daily Economic Points

## May 9, 2016

### 図表1 非農業部門雇用者数

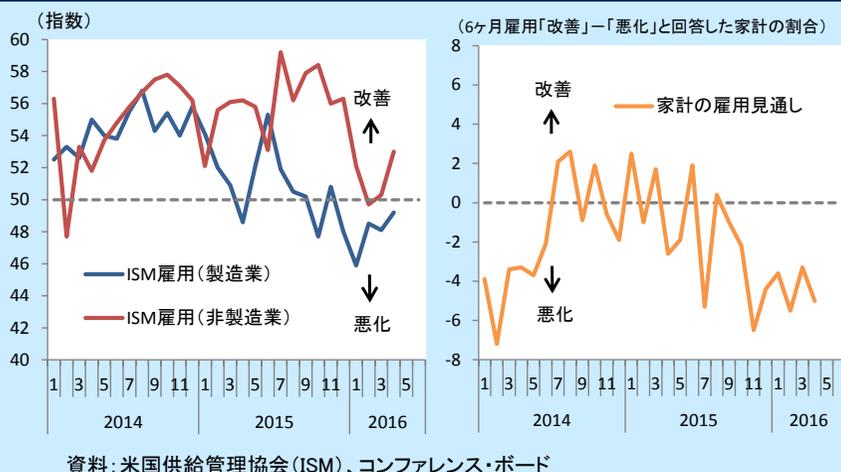


### 評価ポイント

#### 今回の結果

- 16年4月の非農業部門雇用者数は、前月差+16.0万人増と、前月(同+20.8万人増)から増加幅が減少した。
- 内訳をみると、専門・ビジネスサービス(同+6.5万人)、教育・医療(同+5.4万人)で増加幅が拡大した。一方、建設業(同+0.1万人)は増加幅が大幅に低下。小売業(同▲0.3万人)も、16年1月から3月にかけて大幅な増加(月平均で同+5.3万人)が続いた反動もあって、16ヶ月ぶりに減少した。また、ここ数か月は原油価格がやや持ち直しているものの、シェール関連産業を含む鉱業・林業(同▲0.8万人)が19ヶ月連続で減少した。
- 4月の失業率は5.0%と前月から変わらず。FOMC参加者が想定する長期均衡失業率(4.8%)付近で推移している。労働参加率は、15年後半以降、上昇傾向に転じているが、4月は62.8%と前月(63.0)から小幅低下した。
- 時間当たり平均賃金は前年比+2.5%と前月(同+2.4%)から伸びが小幅上昇。15年3月から上昇傾向だが、16年入り後は2.5%前後で伸び悩み。

### 図表2 企業の雇用スタンス 図表3 家計の雇用見通し



#### 基調判断と今後の流れ

- 米国雇用市場は、改善基調を維持しているものの、改善ペースはやや鈍化しつつある。直近3ヶ月の非農業部門雇用者数は月平均20万人のペースで増加したが、15年の増加ペース(同22.9万人)を下回っている。
- 背景には、ドル高や海外経済減速を受けた企業の採用慎重化がある。企業の採用スタンスを示すISM雇用指数は、製造業は拡大・縮小の分岐点である50を下回って推移。非製造業は50を上回っているが14~15年に比べ低い。
- 先行きも、内需の堅調を背景に雇用の改善基調は維持するが、製造業を中心とする企業の採用慎重化により15年に比べ改善ペースは鈍化すると見込む。ただし、家計の雇用不安が高まる中、消費者マインドが悪化すれば、米国経済を支えている消費の伸びが鈍り、サービス業でも雇用の改善ペースが鈍化する可能性には注意が必要である。